

ちょっと怖い話

今回は、少々回りくどい、批判を受けそうなことを書きます。

先日の夜、片側3車線交差点の直線車線で赤信号のため停車していました。自分の車線の右側（センター側）は右折車線で、自動車は無く空いていました。

交差する道路は緑信号なので、自動車が進んでいます。

その時！ すーっと私の右横を自動車が通り過ぎていきました。

そうです。逆走行です。後ろを見ると、パッシング、クラクションが聞こえました。

たぶん幸いにも事故はなかったようです。

乗っていたのは、前方をじーっと見ながら運転していた男性の老人でした。

本当にあるんですね。

この後、いろいろなことが頭をよぎった。

30年前、自動車学校へ行っていたとき、教官がいった。「オートマチックはダメだ！ 自動車は、両手両足を駆使して動かさないといけない。」

オートマチックは、体の半分で運転が可能であり、使わなくても良い部分が出てくる。今研究中の全自動の車だと、基本、乗っているだけだ。

便利になるから本来運転が難しくなる年配者が運転できるようになる。従って事故も多くなる。マニュアルなら今日のようにはいかないだろう。

話題を教育に当てはめよう。

節電・省エネと称して全自動でドアが開閉し、電灯の点消灯、蛇口の開閉……。このような環境で生活する子供・大人は、ドアの閉め、スイッチの切り、水道の閉じができなくなってしまう。

ドアを開けっ放しにした子供に、「閉めなさい！」と注意しても、何のことを言われているのかわからない。全く恐ろしい話である。

自動車のナビゲーションがついてから、地図を見ながら目的地へ行くことができなくなった。

ワープロを使うことで、辞書を使えなくなり、書くことができなくなった。

エアコンを使うことで、窓を開けることをしなくなった。

こんなことが普通になっている。そして、「今時の……」と言ってしまう（思ってしまう）。

このような現代社会において、どのような教育をしたらよいのだろうか。

たぶん、年齢が小さいころは、機械を使わず、生きるための基礎と学びの基本をしっかりすることだろう。ICTは小さなころは最小限にし、年齢とともに徐々に取り入れていけばよい、と従来からいわれてきた。

小さなころの習慣、経験、価値観が大きくなっても忘れず、必要感を持ち続けることができるようにするかどうかだろう。

大変難しい時代になってきた。生物のように、使わない部位が退化しないようにしたいものである。